

令和元年度（平成31年度）島根県立石見養護学校
学 校 評 価 表

- ① 確かな「生きる力」を育む学校にしよう
- ② 安全で安心できる学校にしよう
- ③ 地域と連携・協力して取り組む学校にしよう

評価基準に沿っての達成状況
A=達成9割以上、B=7割以上9割未満、C=5割以上7割未満、D=5割未満

目標	目標	学部・分掌	重点目標 (学部・分掌・人権・同和教育推進委員会)	評価項目(手立て)	○評価指標及び★基準	評価	他の業務を含めた気づき(良さ・課題)	改善案	外部評価
① 確かな生きる力を育む学校にしよう	心身ともに健やかで たくましく生きる	小・中学部	・「～したい」という気持ちやあこがれの気持ちを持ち、様々な事に主体的に挑戦する児童生徒を育てる。	・児童生徒が興味関心をもてる様々な題材や、経験を生かしたり考えたりする学習を取り入れ、自分から学習に向かうことができるようにする。 ・学習への意欲や挑戦する気持ちを引き出せるよう学習を発表したり、感想を伝え合ったりする時間をもち。	○授業中や授業後に自分から物事にかかわったり挑戦したりする姿があったか。また、「やってみよう」「次は～したい」の言葉等で表現することができたか。 ★実績	B	・各学級や学部全体での活動の中で、「友達」「挑戦」「協力」を合言葉に、意欲やあこがれの気持ちをもてるような学習を意識して設定した。自分から物や人に働きかけたり、意欲をもって学習に取り組んだりする姿が見られた。 ・児童生徒が興味関心をもてる題材や、経験を生かしたりする題材を取り入れることは意識してできたが、考えて答えを導き出すような学習はもう少し工夫が必要だった。	・同じ単元でもグルーピングの工夫によって、考え、答えを導き出すような学習を取り入れていきたい。 ・意欲や挑戦する気持ちを引き出せるよう、学習の発表会や感想を伝え合ったりする時間を設定する。また、学習の振り返りや次の学習への意欲につながるよう学習記録(学習の流れにそった児童生徒が見てわかるもの)等を掲示する。	B
		高等部	・生徒同士(教員も含め)で考えや思いを表現し、伝え合い、学び合うことで、知識を広げ深めながら自己の考えをもって主体的に行動する力を育てる。	・様々な活動の中で、生徒一人一人が考えをもてるよう学習を組み立て、生徒が意見を出し合う(表現し合う)ことのできる場面を大事にしていく。	○評価項目 毎時間の授業中や授業後に自分なりに学んで考えたことを実践したり、相手に伝えたりする等の表現をすることができたか。 ★評価基準 全員できたA、7割できたB、5割できたC、5割未満D	B	・学部としては、伝え合いが進んできているが、課題もある。	・生徒の実態によっては、伝えにくさや伝わりにくさがある。どのような方法であると伝え合いになるのかを模索する必要がある。 ・高等部生徒の「人との関わり」については、高等部教員で生徒理解とともに共通理解し指導・支援を行いたい。	
		教務部	・新学習指導要領への円滑な移行を図る。	・教育課程検討委員会で検討した内容や新学習指導要領について校内に周知していく。	○教務たよりを発行することができたか。 ★年3回	A	・教務たよりを年3回発行した。分かりやすい内容だったとの意見が多かった。	・新学習指導要領の内容や評価について、スムーズに業務が遂行できるように具体的に情報を発信していく。	
		研究部	・新学習指導要領に沿った校内研究の推進をする。	・研究用フォーマットに沿って計画的に授業実践を進める。	○校内研究の計画通りに、実態把握から授業立案、実施、評価をすることができたかどうか。 ★研究グループ会を月1回実施。各グループで1回は授業実践を行う。	B	・おおむね予定通りに実施できた。 ・フォーマットやフレームワークがあることにより必要な情報共有ができた。	・取組の意義や必然性についての理解を進めていくこと。 ・研究テーマや実施の方法に関して、学びの変革の各種プロジェクトとの役割を調整しながら改善していきたい。	
		進路指導部	・自分の適性や特性、好きなことや苦手なこと等についての理解を促し、卒業後の生活をイメージしながら進路学習を進める。	・様々な学習の振り返りの際に自分の成長や課題、得意なことや苦手なこと等に気づくことができるような支援ができたか。	○高等部では現場実習報告会、小中学部ではキャリア教育の視点をもった授業を実施し、振り返りを行う。 ★各学部、年間2回は実施する。	B	・自分の興味・関心があることや適性を考慮した実習及び体験先を開拓し、職業について体験的に学ぶ機会を提供できるよう努めた。中学部・高等部においては、その振り返りの機会を設定し、将来をイメージしながら深めることができた一方で、小学部では評価指標にあるような学習の場に関しては設定できなかった。	・日々取り組んでいることが将来を見据えたキャリア教育の取組であるにもかかわらず、結果としてキャリア教育ができなかった、と感じている人も少なからずいた。キャリア教育に関する研修を行ったり、キャリアパスポートを導入したりすることで、意識化できるようにしたい	
		舎務部	・生徒同士で考えや思いを表現し、伝え合い、学び合うことで、知識を広げ深めながら自己の考えを持って主体的に行動する力を育てる。	・話し合い活動を通して、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを考えたりする時間をつくる。	○部屋会または棟会での話し合い活動を実施することができたか。 ★実績	A	・これまでの男女棟会単位よりさらに人数の少ない部屋会を設定した。自分の意見を言いやすい環境をつくったことで、多くの意見が飛び交うようになった。その場で意見が出しにくい生徒に対しては、事前に指導員が聞き取りをすることで本人の意見を持ち寄って参加することでできた。話し合いの内容について、当初は『部屋目標を設定して守ること』だったが難しく、2学期は『自分たちのやりたいこと・好きなこと』を考えることで、主体的に取り組むことができた。	・現舎生は、寄宿舎生活の中で、『自らの生活自立のために目標をもち主体的に取り組むこと』は難しい。今回の『やりたいこと、好きなこと』への取り組みから学び、少しずつ生活の中での課題に対して主体的に取り組むように工夫していきたい。	

力を豊かな心を育む ②安全で安心して生活できる学校づくり	総務部 ・避難訓練の年間計画（2年単位）を計画的に実施する際、児童生徒が安全や防災に関心をもてるための指導をすすめられるよう努める。	①避難訓練の事前指導、事後指導のための情報提供をしたり取組状況の集約をしたりし、検討をする。 ②児童生徒が安全について考える場面を設定した避難訓練を実施する。 ③安全や防災に関わる情報を発信する。	①指導のための情報提供や取組状況についての検討結果を提示できたか。 ★実績 ②児童生徒が安全について考える場面を設定した避難訓練を実施できたか。 ★実績 ③安全や防災に関わる情報を発信できたか。 ★年2回	B ・避難訓練の事前指導、事後指導のための情報提供をしたりワークシートで取組状況の集約をしたりした。また、火災、地震の避難訓練を昼休み実施（予定含む）し、避難時に教員の指示のない状況でどう行動したらよいか考えるきっかけとなった。	・自分の命を守るために、いろいろな状況を踏まえ考え行動できるよう指導継続が必要。 ・そのための、避難訓練の事前指導や非常食の飲食に関わる災害安全指導の全体計画を考えていきたい。	A
	保健部 ・インフルエンザや食中毒等の感染症予防、熱中症予防に努める。	・日頃からの手洗いの徹底、行事や季節に応じた予防対策をする。 ・児童生徒が自分からマスクの着用、手洗い・消毒、こまめな給水等に心がける。	○保健だよりを発行することができたか。 ★熱中症や食中毒がおこる時期（6月、7月、12月） ○手指消毒液を設置することができたか。 ★学校行事における校内各所への設置	A ○熱中症予防に努めた。 ・管理職・事務の協力のもと、ペットボトルや塩分チャージを準備した。また、保健だよりや保健室掲示を活用して水分補給の呼びかけを行った。 ・必要に応じて塩分チャージを配布したり、呼びかけをすることで熱中症予防に努めることができた。 ○感染症予防に努めた。 ・保健だよりやポスター配布で周知したり、手洗い・うがい・換気・マスク着用等の徹底を図った。 ・もりもり祭等の学校行事では、校内のさまざまな場所に手指消毒液を配置し、感染症の予防に努めることができた。	・今年度同様、取り組みの徹底を図る。 ・児童生徒を対象にした救急法講習を検討する。	
	人権・同和教育 ・人権意識の向上を目指し、意見交換や効果的な研修会等の企画、運営をする。	・人権意識を高める取組を行う。 ・教職員に向けて、人権・同和教育に関する情報を発信する。	○人権・同和教育に関するミニ研修を職員会議Ⅱで実施することができたか。 ★ミニ研修を2回実施する。 ○教職員に向けて、人権・同和教育に関する研修会や関係文書等の情報を発信することができたか。 ★通信の2回発行、研修会や関係文書の回覧やメール配信する。	A ・ミニ研修の内容が良かった。今後も定期的開催し、人権について考える時間を設ける。 ・研修等のメール配信も良かった。今後も継続する。 ・校内研修会 研修の持ち方について事前に検討し、しっかりと打合せがあると良かった。（講師の思いが伝えきれなかったのではないかな）	（1）教員の意識を高める努力： ①ミニ研修の活用。 ②人権・同和教育目標をもとに普段の指導を振り返る。 （2）生徒の意識を高める努力： ①体験的に学べる場の設定。 ②障がい者理解を深める学習活動の設定。 ③カリキュラム・マネジメントによる人権・同和教育での指導内容の検討。 （3）学校全体での取組： ①人権週間でのPR活動。 ②価値観を出し合う学習場面の設定。 ③人権・同和教育推進委員全員が活動に参画できるしくみ、役割分担をする。	
	事務部 ・児童生徒が安全で安心できる環境を整備する。	・巡回点検や教職員からの要望等により、施設・設備に係る改善事項を把握し対処する。	○日常的な維持管理、危険箇所等の修繕が適宜行われたか。 ★実績	A ・必要に応じて施設・設備の維持管理や修繕、物品購入等を適宜に行うことができた。	・来年度も巡回点検や教職員からの要望等により整備が必要な事案を早めに把握し、予算に応じて計画的に執行する。	
③地域と連携・協力して取り組む学校づくり 子ども支援部	地域と連携・協力した学習活動を通して、本校や特別支援教育についての理解啓発を進める。	③地域と関わりのある学習活動の事前・事後学習において、それぞれの学習で理解啓発に向けた活動にも取り組めるように、具体的な情報を収集・発信する。	○出前授業の実践状況や感想、地域と関わりのある学習活動で地域の方の声や要望を集めて、情報を共有することができたか。 ★学期ごとに集約して共有する。	B ・HPの掲載も数件行い、外部への啓発はできた。2学期からHP担当と連携して地域と連携した活動の集約・発信の流れを作れたのは良かったが、校内の全教職員に浸透するまでには至ってないと感じた。	・今後も理解啓発の取組を実施し、校内への情報共有の仕方をメール等で行い、周知できるようにする。 ・出前授業については、様々な要望があるので、出前授業の趣旨等の外部への周知を行いながら、実施していく	B
児童生徒の意見	○作業時間が増えて欲しい。部活の時間を増やして欲しい。部活の時間が少ないので、毎日部活をやりたいです。 ☆「大きな声で挨拶をする。」「みんなが過ごしやすい学校、友達と協力し合う。」「相手の気持ちを考えること。」「目標を意識して生活したり、スリッパをきれいに揃えたりすること。」をしていきたいです。					
保護者の意見	●一人一人の生徒と向き合って学習して欲しい。居住地交流を積極的に行って欲しい。「できること」「できないこと」を明確に伝えて欲しい。書類の書き方をわかりやすくして欲しい。					
学校評議員の意見	○児童生徒が地域で見守られながら成長できるよう、養護学校在籍中こそ学校内で抱えることなく、地域の支援者と積極的な繋がりをもって欲しい。 ○児童生徒が、将来地域に帰った時に、自分の意思を明確に伝えられる力を付けて欲しい。 ○邑南町だけが石見養護学校の地元ではない。広域から通ってきているからこそ、川本町、美郷町等への情報発信を積極的に行って欲しい。					
次年度に向けて	○思いや考えを発信できる力の育成・・・「思いや考えを発信できる力」「伝え合う力」を育てるために、一人一人の児童生徒が「思いを聞いてもらえた」「伝えて良かった」と実感できる学びを積み重ねる。 ○学校の取組や指導の意図を発信・・・図書館の利用（読書教育）、人権・同和教育、学習指導、生徒指導、生活指導、進路指導、交流及び共同学習等の取組や指導の意図、児童生徒の様子を保護者や地域へ丁寧に発信する。 ○児童生徒の思いを学校づくりに生かす・・・「大きな声で挨拶」「みんなが過ごしやすい学校、友達と協力し合う。」「相手の気持ちを考えること。」等、児童生徒の前向きな思いを学校づくりに生かす。					